

## 序 文

# 秋山洋子先生を送る

経済学部長 町 田 欣 弥

経済学部は2012年3月末で創設から22年の歳月を数えるに至った。大学にとっても、社会そのものにとっても激動あるいは激変といわれるような環境変化が続いている。とりわけ、2011年は私たち日本人にとって忘れることのできない年となった。このような中で、われわれには自分たちの研究成果がどのように社会へ貢献できるのかが大きな関心事である。

本学部の特徴のひとつは、幅広い分野の教員を擁していることである。そのメンバーで私たちの先輩教員である秋山洋子先生が2012年3月をもって退職される。

秋山先生は、1967年東京大学大学院人文科学研究科中国文學専修修士課程修了後、都立日比谷高校非常勤講師をはじめ教育者としての経験を積まれた後、ご家族とともに1974年より7年にわたり、当時のソビエト連邦のモスクワで過ごされたとのことである。1981年に帰国されてからも、タウン紙記者としてご活躍される傍ら、執筆活動、日本語学校での非常勤講師、さらに日本大学などで中国語および日本語の非常勤講師として大学生への教育活動にも従事されている。

その後、1995年4月に、日本語の担当教員として本学経済学部に着任された。外国人留学生にとって、秋山先生ご担当の日本語科目が本学での最初の入り口の授業になる。先生は、これを十分に意識されたうえで、外国人留学生たちがいかにスムーズに大学生活を始めることができるかに腐心され、大学へのさまざまなご提案もなされた。

同様に秋山先生には経済学部における導入教育であるプロゼミナールの取り纏め役をご担当いただき、約20名の教員の連携による初年次教育の実現にも力を注がれてきた。本学部の初年次教育が評価される礎づくりに大いに貢献された。

研究面では、とりわけ中国における女性のあり方を中心に、女性学、ジェンダーといった分野で、多くの業績を残しておられる。また、福祉と共生の視点からボランティア活動に関する研究にも参加されている。この研究成果とモスクワという異郷の地における先生の貴重な体験に基づいて、共生社会論をご担当いただいた。

そして大学の管理運営面でも多くの業務を歴任され、全学的には2007年度より2009年度まで教養文化研究所所長を務められたほか、学部においても教務、入試、学生といった主要な委員会にご参加いただき、多くのご負担をお掛けした。

ここに秋山先生の長年に亘る多大なご尽力とご貢献に衷心より感謝を申し上げますとともに、今後のますますのご健勝ご活躍を祈念いたします。